

こうのとりのマリーン基金の助成を受けた方からのメッセージ

私は昨年9月に骨髄異形成症候群を発病しました。翌年3月にさい帯血移植をすることになり前処置の放射線治療で不妊になると聞きました。卵子保存をすすめられましたが、自費で高額なことからやらなくてもいいかなあ…と考えていたところ、こうのとりのマリーン基金を知りました。無事卵子保存を終え、さい帯血移植をし、今は自宅療養をしています。基金のことを知らなければ私は卵子保存をしてなかったかもしれません。

今、私は21歳です。これから社会復帰をして仕事もプライベートも充実させて、いつかは自分の子どもがほしいなと思います。大変な思いをしている患者さんがいつかママになれることを心から願います。この度は本当にありがとうございました。(関東在住：患者さん本人)

まずは、皆さまに感謝申し上げます。

私自身まだ独り身ですので、助成金は大変助かりました。治療後、仕事を始めるまでの生活は大変なものでした。精神的にも不安定でありこういう後ろだてがある事で、未来をみる事が出来たと思っております。予後はわかりませんが、何事も諦めず前を向き進む事で夢が叶うと思える様になりました。

この機会を無駄にする事なく、体調を整え未来をみようと思いました。諦めない未来の為、とても重要な助成金だと私は感じています。(関東在住：患者さん本人)

思いもよらず白血病になり、思いもよらず卵子凍結をすることになりました。7月に5個の卵子を採取・凍結しましたが、妊娠には10個は欲しいと医師に言われ、その後治療の合間に再度採卵・凍結をしました。治療の合間を見て婦人科に通うことは体力的にも大変な負担でしたし、白血病の治療費のかかる中、二度の採卵は金銭的負担も大きなものでした。

二度目の採卵をするにあたり、基金の存在は大きな力になってくれました。この基金がなければ二度目の採卵に踏み切っていたかどうかわかりません。本当に感謝しています。

採卵・凍結にあたり、白血病の方の卵子保存について情報が少ないと感じました。ネットで検索しても体験談のようなものを綴っている方はほとんど見当たりません。治療をしながらどのように採卵したか、いくつ採卵するのが好ましいのかなど事前に情報があるとよかったと思います。白血病になり卵子保存するという特殊な体験をする方々が利用するこの基金で体験談を募集し、発信していただくと今後の方々に役立つのではないかと思います。

(北海道・東北地方在住：患者さん本人)

彼との生活を直前に白血病と診断され目の前が真っ暗になり絶望的の中、主治医の先生からこうのとりのマリーン基金のことを聞きました。今ならまだ治療前なので卵子凍結保存ができるとクリニックを探してくれました。まだまだ若いので、将来子どもが産めるようにいろいろと考えてくださり、不安はありましたが無事卵子凍結保存することができました。骨髄移植も無事終わることができ、本当に感謝しています。後は、からだの体調を整えて無理をせずがんばります。将来子どもが産みたいです。本当にありがとうございました。

(中国四国地方在住：患者さん本人)